

でる症 地域え知 支認

令和元年10月1日時点で、65歳以上の人口は3589万人となり、総人口に占める割合は約28%となりました。令和47年には約3人に1人が65歳以上になるという将来推計が発表されています。

私は大丈夫と思っても、自身や大切な家族が認知症になるかもしれません。加齢と共にかかる確率が上がる認知症ですが、若年性認知症のように早ければ30代でかかる人もいます。認知症は、脳や体の病気が原因で、記憶力や判断力が低下し、何度も同じことを言ったり聞いたり、段取りや計画が立てられないなどの症状が挙げられます。

「ちょっとおかしいな」と思った

ら一人で抱え込まず、すぐにかかりつけ医や高齢者サポートセンター、在宅介護支援センター、地域の民生委員等にご相談ください。早期診断・早期対応することで服薬や生活習慣の改善、適切なケアを通して症状を抑えることができます。認知症は脳の病気であり、隠すものではありません。もしも近くにそのような人がいたら、優しく声を掛けてあげてください。その優しさのつながりが、いつか自身や大切な家族が認知症になったときに、あなたを支えてくれることでしょう。

県では、9月を「茨城県認知症を知る月間」と定め、認知症の早期発見や認知症予防の取り組みを推進しています。認知症は特別な病気ではありません。地域全体でこの病気に向き合い、一人一人が相手を思いやる気持ちを持って、認知症を正しく理解することが大切です。認知症の人や介護する家族を地域全体で包み込み、誰もが安心して自分らしく暮らせるまちを目指しましょう。

